

心理・文化学科 5月オープンキャンパス ～心理・文化学科で楽しく学ぼう～

九州女子大学人間科学部心理・文化学科では、心理学、国語書道教育、文化文芸の3つのコースの授業を通して人間や社会について深く考える視点を養い、社会での実践力へとつなげていきます。

5月25日(土)のオープンキャンパスのご案内として、今回は文化文芸コースを例に、大学で学ぶとはどのようなことかをご紹介します。

小説を読むことは、まずは物語を楽しむことですが、言葉ひとつひとつを丁寧に分析することや作品の背景を知ることによって、別の世界が見えてきます。

私たちが趣味として読書を楽しむときには、例えば恋愛の切なさを描いた小説、友情の素晴らしさを描いた小説などのように、作品の表面にあらわれやすいもの、つまり「何が書かれているか」を中心に味わっています。

しかし、大学の授業では、作者によって切り取られた世界が「どのように語られているか」「どのように構築されているか」という視点に立って、作品に隠されたものを読み解いていきます。

たとえば、怪談を語る時、語り手は「オチ」を知ったうえで語るはずですが、結末で何が起こるか分からないように語ることによって、聞き手の恐怖心は刺激されます。「語り」の方法に注目する視点に立つと、これまでに気づかなかった物語のさまざまな側面が理解できます。

これは、心理職の方々が相手の話を聞くとき、話の内容だけでなく、話し方やその人の背景にも目配りすることと共通する考え方だと言えるでしょう。



オープンキャンパスでは、3つのコースの教員が、それぞれのコースの特色を紹介しながら、高校生の皆さんが自分の夢へと近づく方法をご提案します。特に文化文芸コースでは、小説や漫画や・アニメなど、これまで「趣味」の分野であったものを「学び」にしていく面白さをお伝えします！

みなさんも、九女で「好き」を共有できる仲間を見つけませんか？

